

(表紙)  
(所属コード 752727)

平成 30 年度

# 「校長経営戦略支援予算配付申請書」

大阪市立長吉六反中学校

校長 田代 晋司

平成 30 年 4 月

申請受付日	
指導部で記入	→
/	

【様式 1】

(所属コード 752727)

大阪市立長吉六反中学校 平成 30 年度 校長経営戦略支援予算配付申請書(総括)

1 学校運営における現状と課題 ※運営に関する計画の 1 学校運営の中期目標欄に記載の現状と課題を再掲

この数年、教職員の組織的な指導体制のもと、地域・保護者との連携を深めることにより、規範意識の育成や基本的生活習慣の確立などに努めた結果、おおむね落ち着いた学習環境を維持できている。今後とも学力向上の基盤として、生活指導体制の充実を図る必要がある。

また、厳しい家庭環境の生徒が多く、家庭学習に大きな課題があり、学習意欲が高いとは言えず、自ら意欲的に学習に取り組む姿勢づくりをする必要がある。読書習慣にも課題があり言語力の育成を図る必要がある。そのためにも「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業づくり、ICT 機器の活用、習熟度別指導の充実など授業方法の工夫等に取り組み、授業力の向上に努めていきたい。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査においては、多くの領域で、全国・大阪府平均を下回っている。このため、日ごろから運動に親しむ習慣がつくような取り組みを推進する必要もある。

2 学校運営の中期目標 ※運営に関する計画の 1 学校運営の中期目標欄に記載の中期目標を再掲

**【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**

○安全で安心できる学校をつくる。

- ・平成 32 年度末の校内調査において「学校で認知したいじめについて、解消した割合」を 95 % 以上にする。
- ・平成 32 年度の校内生徒アンケートにおいて「学校の決まりや規則を守っている」と答えた生徒の割合を、94 % 以上にする。

○道徳教育、人権教育、キャリア教育を推進し、道徳心・社会性の育成をはかる。

- ・平成 32 年度の校内生徒アンケートにおいて「命や人権の尊さについて考えたことがある」と回答した生徒の割合を 80 % 以上にする。
- ・平成 32 年度の校内生徒アンケートにおいて「自分にはよいところがある」と回答した

生徒の割合を 70 % 以上にする。

○地域に開かれた学校づくりを推進する。

平成 32 年度の保護者アンケートにおいて「学校は、情報発信を積極的に行い、教育内容に対する説明をしている」と回答した割合を平成 28 年度比 10 ポイント以上向上させる。

**【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**

○生徒一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組みを行う。

- ・平成 32 年度の校内生徒アンケートにおいて「授業はわかりやすい」と答えた生徒の割合を 75 % 以上にする。
- ・平成 32 年度の校内生徒アンケートにおいて「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して肯定的な回答をする生徒の割合を平成 28 年度比 10 ポイント向上させる。

- すべての学力の基盤としての言語力を育成する。
  - ・平成32年度の校内生徒アンケートにおいて「本を読むのが好きだ」と答えた生徒の割合を平成28年度比10ポイント向上させる。
- 家庭学習の習慣をつけさせる。
  - ・平成32年度の全国学力・学習状況調査の結果において「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について肯定的に答える生徒の割合を全国平均以上にする。
- 全国体力・運動能力調査の数値を、毎年向上させる。

### 3 中期目標の達成に向けた年度目標 (全市共通目標を含む) ※運営に関する計画再掲

#### 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

##### 全市共通目標

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 校内調査における、「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合90%以上にする。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

##### 学校園の年度目標

- 道徳教育、人権教育、キャリア教育を推進し、道徳心・社会性の育成をはかる。
  - ・平成30年度の校内生徒アンケートにおいて「命や人権の尊さについて考えたことがある」と回答した生徒の割合を80%以上にする。
  - ・平成30年度の校内生徒アンケートにおいて「自分にはよいところがある」と回答した生徒の割合を70%以上にする。
- 地域に開かれた学校づくりを推進する。

平成30年度の保護者アンケートにおいて「学校は、情報発信を積極的に行い、教育内容に対する説明をしている」と回答した割合を前年度より向上させる。

#### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

##### 全市共通目標

- 「中学生チャレンジテスト」における標準化得点(※1)を、前年度より向上させる。
- 「中学生チャレンジテスト」における正答率が市平均（府平均）の7割に満たない生徒の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。
- 「中学生チャレンジテスト」における正答率が市平均（府平均）の2割以上回る生徒の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント増加させる。
- 校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査を、1・2年生について全種目の調査を3学期にも再度実施し、体力合計点と全種目の結果を1学期より向上させる。

##### 学校園の年度目標

- 生徒一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組みを行う。

平成30年度の校内生徒アンケートにおいて「授業はわかりやすい」と答えた生徒の割合を75%以上にする。

○すべての学力の基盤としての言語力を育成する。

- ・平成30年度の校内生徒アンケートにおいて「本を読むのが好きだ」と答えた生徒の割合を前年度より向上させる。

○家庭学習の習慣をつけさせる。

- ・平成30年度の全国学力・学習状況調査の結果において「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について肯定的に答える生徒の割合を前年度以上にする。

※1 <標準化得点の算出方法>

$$(各校の正答数(率) - 平均正答数(率)) \div \text{標準偏差} \times 10 + 100$$

#### 4 29年度の自己評価結果の総括 ※運営に関する計画再掲

##### 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）】

本年度の学校運営全体を通して、生徒が安心して成長できる学校環境をベースにした教育活動ができた。全市共通の目標はほぼ達成できているが、不登校生の割合が高い水準で推移しており、継続的な取組みが必要である。

道徳・人権・キャリア教育については概ね計画通りに取り組むことができ、規範意識、人権意識は向上しているが、自尊感情の醸成が課題である。

地域に開かれた学校づくりについては年度目標は達成できているが、今後ともより理解の得られる活動の推進が必要である。特に地域と連携した防災教育を推進していくたい。

##### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

「中学生チャレンジテスト」では同一の母集団で比較すると標準化得点や平均正答率の向上はみられるが、府・市平均を下回っており大きな課題がある。「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業づくり、習熟度別指導など個に応じた指導方法の工夫、ICT機器の活用を通じ、基礎学力の定着、成績下位層の底上げに取り組む必要がある。

また、すべての学力の基礎となる語彙力・読解力の向上に向け、朝の一斉読書、図書室開館の増加と戦略支援予算を活用した図書室整備や新聞の購入、漢字検定の受験などを行った。読書の習慣など改善傾向にはあるが、今後も継続的な取組が必要である。

「大阪市英語力」調査においても市平均を下回っている。英語学習への意欲向上をめざし、今年度経営戦略予算を活用して1・2年生全員が「英語検定」を受験した。2年生で3級合格者をだすなどの成果もあり、来年度以降も継続して実施するとともに、CNETを有効に活用するなど英語授業の改善に取り組みたい。

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果、多くの領域が全国・府平均を下回っており、大きな課題がある。体育授業の工夫はもとより、運動部加入率の向上や日ごろから運動に親しむ習慣がつくような取り組みが必要である。

#### 5 30年度の自己評価結果の総括 ※運営に関する計画再掲(年度末に記述)

#### 6 事業執行管理体制名簿

学校長 ( 田代晋司 )

教頭 ( 西村有里 )

学校事務職員 ( 浅野朝子 )

※シートが複数枚になつてもさしつかえありません。

申請受付日	
指導部で記入	→

【様式 2-1】  
(所属コード 752727)

大阪市立長吉六反中学校 平成 30 年度 校長経営戦略支援予算 【**基本配付**】配付申請書

年度目標	達成状況
<p><b>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</b></p> <p><b>全市共通目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。</li> <li>○校内調査における、「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合 90% 以上にする。</li> <li>○年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。</li> <li>○年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。</li> </ul> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳教育、人権教育、キャリア教育を推進し、道徳心・社会性の育成をはかる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 30 年度の校内生徒アンケートにおいて「命や人権の尊さについて考えたことがある」と回答した生徒の割合を 80% 以上にする。</li> <li>・平成 30 年度の校内生徒アンケートにおいて「自分にはよいところがある」と回答した生徒の割合を 70% 以上にする。</li> </ul> </li> <li>○地域に開かれた学校づくりを推進する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 30 年度の保護者アンケートにおいて「学校は、情報発信を積極的に行い、教育内容に対する説明をしている」と回答した割合を前年度より向上させる。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「中学生チャレンジテスト」における標準化得点（※1）を、前年度より向上させる。</li> <li>○「中学生チャレンジテスト」における正答率が市平均（府平均）の 7 割に満たない生徒の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント減少させる。</li> <li>○「中学生チャレンジテスト」における正答率が市平均（府平均）の 2 割以上上回る生徒の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント増加させる。</li> <li>○校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。</li> <li>○全国体力・運動能力、運動習慣調査を、1・2 年生について全種目の調査を 3 学期にも再度実施し、体力合計点と全種目の結果を 1 学期より向上させる。</li> </ul> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組みを行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 30 年度の校内生徒アンケートにおいて「授業はわかりやすい」と答えた生徒の割合を 75% 以上にする。</li> </ul> </li> </ul>	

○すべての学力の基盤としての言語力を育成する。

- ・平成30年度の校内生徒アンケートにおいて「本を読むのが好きだ」と答えた生徒の割合を前年度より向上させる。

○家庭学習の習慣をつけさせる。

- ・平成30年度の全国学力・学習状況調査の結果において「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について肯定的に答える生徒の割合を前年度以上にする。

※1 <標準化得点の算出方法>

$$(各校の正答数(率) - 平均正答数(率)) \div \text{標準偏差} \times 10 + 100$$

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容 ①【 施策2 道徳心・社会性の育成 】</p> <p>人格形成の基礎を培うため、様々な本物（芸術作品・芸能・音楽）に触れさせ、個性や想像力、自分を表現する力をはぐくみ、生徒の情操を豊かにする。</p>	
<p>指 標 校内生徒アンケートにおいて「本物に触れることのできる芸術（演劇や古典芸能や音楽）鑑賞に興味がある」と回答した生徒の割合を前年度以上にする。</p>	
<p>取組内容 ②【 施策2 道徳心・社会性の育成 】</p> <p>修学旅行や一泊移住において体験学習を実施し、自然や他者との触れ合いを通じ、協力しながら目標を達成することにより、自己肯定感の醸成、社会性や共に生きる力の育成を図る。</p>	
<p>指 標 校内生徒アンケートにおいて「自分にはよいところがある」「人の役に立つ人間になりたい」と回答した生徒の割合を前年度以上にする。</p>	
<p>取組内容 ③【 施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援 】</p> <p>市営交通の一日乗車券を使い大阪市内を班別に行動し大阪の歴史、文化伝統などを学ばせる「大阪探検」や地域行事への積極的な参加により“わが町 大阪”を愛する心を育てる。</p>	
<p>指 標 校内生徒アンケートにおいて「大阪の歴史・文化・伝統に興味がある」と回答した生徒の割合を年度当初より5ポイント以上向上させる。</p>	
<p>取組内容 ④【 施策6 國際社会において生き抜く力の育成 】</p> <p>生徒の発達段階に応じて、英語のコミュニケーション能力の4分野である、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」力をバランスよくはぐくむ。</p>	
<p>指 標 「大阪市英語力調査」において、取り組みの成果を検証する。</p> <p>英検3級以上の生徒の割合を昨年度より向上させる。</p>	
<p>取組内容 ⑤【 施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組 】</p> <p>全校的に取り組んでいる「漢字学習」をより充実させ、漢字力をつける。</p>	
<p>指 標 「漢字検定」を受験させ、取り組みの成果を検証する。</p> <p>合格率50%以上をめざす。</p>	

## 29年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

①学校元気アップ本部と生徒会執行部、美化委員会や生徒のボランティアがともに、花壇の花を育て、芝生の草抜き、畑で芋の栽培などを行った。この活動に対し、平野区長より表彰された。生徒アンケートにおいて「校内に緑や芸術作品が豊富にあり心が豊かになる」と回答した生徒の割合は56.5%（昨年同期59.8%）であった。

②美術科や国語科、文芸部の生徒作品を校内に常時掲示したほか、文化発表会では学年、教科、部活動の生徒作品を展示した。芸術鑑賞会では「英語落語」を実施した。生徒アンケートにおいて「本物に触れるこことできる芸術（演劇や古典芸能や音楽）鑑賞に興味がある」と回答した生徒の割合は54.1%と前年を4ポイント下回った。今後とも様々な機会をとらえ、生徒の興味・関心のある本物の芸術作品、芸能、音楽に触れさせる必要がある。

③2年生の「大阪探検」は11月16日に実施し、事後にはタブレットを活用して各施設の紹介をおこなった。吹奏楽部が「敬老の集い」など地域行事に参加した。生徒アンケートにおいて「大阪の歴史・文化・伝統に興味がある」と回答した生徒の割合は34.5%（昨年同期53.7%）であった。

④英語科では全学年でTT授業、習熟度別指導を実施し、デジタル教科書を活用やC-NETとのTTなど、授業方法の工夫に努めた。「大阪市英語力調査」（11月2日実施）の結果は、  
3年英検3級LV以上37.1%（市53.2%）、2年英検4級LV以上43.2%（市67.9%）、  
1年英検5級LV以上74.4%（市82.6%）であった。  
また、校長経営戦略支援予算により1・2年生全員が1月19日に「英検」を受験し、事前に英語科、学年で英検対策に取り組み、英語学習への意欲喚起につながった。  
3級合格率100%、4級合格率68%、5級合格者率72%

⑤国語科では全学年でTT授業、習熟度別指導を実施した。校長経営戦略支援予算により1・2年生全員が2月6日に「漢検」を受験し、事前に国語科、学年で漢検対策に取り組み、漢字学習への意欲喚起につながった。⇒漢検合格率22.7%

## 30年度への改善点

- 今後とも様々な機会をとらえ、生徒の興味・関心のある本物の芸術作品、芸能、音楽に触れさせるとともに生徒の自主的な活動を育みながら、緑豊かで美しい校内環境を維持していく必要がある。
- 習熟度別少人数授業の確実な実施、ICT機器の使用、「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業づくりを推進し、基礎学力の定着、下位層の底上げに取り組む必要がある。
- 親子給食実施により昼休みが短くなり、図書館来館者が減少するとともに固定化しており、読書への意識を高める工夫が必要である。
- 家庭学習教材の提供、保護者への啓発を進めるなど、家庭学習の習慣化への取り組みを進めるとともに、放課後やテスト前の学習会への参加勧奨を進める必要がある。

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度（今後）への改善点

**◆基本配付申請内容に対応する項目を記載※運営に関する計画再掲**

※シートが1枚に収まらないときは、複数枚になってもさしつかえありません。

【様式 2 - 2】

大阪市立長吉六反中学校 平成 30 年度 校長経営戦略支援予算 【基本配付】配付申請書

**学校申請額 750,000 円**

※配付上限額(※円単位)

学校配当	学級数	学級配当	特別支援学級数	学級配当
350,000	+	5	×	50,000

配付上限額

=	750,000
---	---------

※本様式に加えて、様式 4-1 の提出が必要です。

◆取組内容・予算内訳

取組内容 ①【施策 2 道徳心・社会性の育成】

人格形成の基礎を培うため、様々な本物（芸術作品・芸能・音楽）に触れさせ、個性や想像力、自分を表現する力をはぐくみ、生徒の情操を豊かにする。

予算内訳

予算費目	予算内訳明細	申請額(※円単位)
1 3	芸術鑑賞委託料	300,000

取組内容 ②【施策 2 道徳心・社会性の育成】

修学旅行や一泊移住において体験学習を実施し、自然や他者との触れ合いを通じ、協力しながら目標を達成することにより、自己肯定感の醸成、社会性や共に生きる力の育成を図る。

予算内訳

予算費目	予算内訳明細	申請額(※円単位)
1 4 - 1	海洋センター一日帰り施設使用料@700×35+8,050(職員)	32,550
1 4 - 1	付帯施設使用料 @620×35	21,700

取組内容 ③【施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】

市営交通の一日乗車券を使い大阪市内を班別に行動し大阪の歴史、文化伝統などを学ぶせる「大阪探検」や地域行事への積極的な参加により“わが町 大阪”を愛する心を育てる。

予算内訳

予算費目	予算内訳明細	申請額(※円単位)
9 - 5	エンジョイエコカード@800×5	4,000
1 2 - 1	エンジョイエコカード@800×49	39,200

**取組内容 ④【 施策6 国際社会において生き抜く力の育成 】**

生徒の発達段階に応じて、英語のコミュニケーション能力の4分野である、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」力をバランスよくはぐくむ。

**予算内訳**

予算費目	予算内訳明細	申請額(※円単位)
1 2 - 4	英語検定受験料 全校生徒 140 名 準2級@4,800、3級@3,400、4級@2,100、5級@2,000 (準会場事務経費差引)	291,050

**取組内容 ⑤【 施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組 】**

全校的に取り組んでいる「漢字学習」をより充実させ、漢字力をつける。

**予算内訳**

予算費目	予算内訳明細	申請額(※円単位)
1 2 - 4	漢字検定5級受験料@2,000×35 (準会場事務経費差引)	61,500

※シートが1枚に収まらないときは、複数枚になってもさしつかえありません。

申請受付日	
指導部で記入	→ /
【様式 3 - 1】	
(所属コード 752727)	

大阪市立長吉六反中学校 平成 30 年度 校長経営戦略支援予算 【加算配付】配付申請書

年度目標	達成状況
<p>○生徒一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組みを行う。 平成 30 年度の校内生徒アンケートにおいて「授業はわかりやすい」と答えた生徒の割合を 75 % 以上にする。</p> <p>○すべての学力の基盤としての言語力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 30 年度の校内生徒アンケートにおいて「本を読むのが好きだ」と答えた生徒の割合を前年度より向上させる。</li> </ul> <p>○校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容 ①【 施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組 】 言語力や論理的思考力の育成をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>元気アップ本部と連携し、図書室をより使いやすくし、全曜日かつ週 7 回以上開館する。</li> <li>各学級に毎日、新聞を配布し、朝読書の時間や休憩時間を利用して自由に読める環境を整備する。</li> </ul> <p>指標・平成 30 年度の校内生徒アンケートにおいて「本を読むのが好きだ」と答えた生徒の割合を前年度より向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。</li> </ul>	

29 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>①元気アップコーディネーター、学力 U P コラボレーター、図書館支援員と生徒の文化委員会が連携し、全曜日かつ週 7 回以上の図書開館を行うとともに、全学年で朝の一斉読書を行った。</p> <p>2 学期より、各学級と図書室に「朝日新聞」「朝日・読売中高生新聞」を配布し、日常的に新聞を読める環境を整えた。生徒アンケートにおいて「本を読むのが好きだ」と答えた生徒の割合は 42.7% (昨年同期 52.6%)、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」と答えた生徒の割合は 67.6% (H28 = 52.5%)、であった。</p>

30年度への改善点

- ・親子給食実施により昼休みが短くなり、図書館来館者が減少するとともに固定化しており、読書への意識を高める工夫が必要である。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度（今後）への改善点

**◆加算配付申請内容に対応する項目を記載※運営に関する計画再掲**

※シートが1枚に収まらないときは、複数枚になってもさしつかえありません。

【様式 3 - 2】

大阪市立長吉六反中学校 平成 30 年度 校長経営戦略支援予算 【加算配付】配付申請書

**学校申請額 801, 600 円**

※本様式に加えて、様式 5-1 の提出が必要です。

◆取組内容・予算内訳

取組内容 ①【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

言語力や論理的思考力の育成をはかる。

- ・元気アップ本部と連携し、図書室をより使いやすくし、全曜日かつ週 7 回以上開館する。
- ・各学級に毎日、新聞を配布し、朝読書の時間や休憩時間を利用して自由に読める環境を整備する。

予算内訳

予算費目	予算内訳明細	申請額(※円単位)
1 1 - 1	朝日、読売、毎日、産経 @40×10 部×210 日	84, 000
1 1 - 1	朝日中高生新聞@100×10×23	23, 000
1 1 - 1	読売中高生新聞@20×10×23	4, 600
1 8 - 2	木製書架（傾斜片面 5 段 2 連）@230, 000 円×3	690, 000

※シートが1枚に収まらないときは、複数枚になつてもさしつかえありません。

大阪市立長吉六反中学校 平成 30 年度 校長経営戦略支援予算 【加算配付】配付申請書  
(補足説明資料)

## 言語力と論理的思考力の育成

### ◎取り組みの必要性

全国学力・学習状況調査の過去 5 年間の平均正答率（国語 A・B 数学 A・B）の合計の平均は、全国平均より 41.8 と大きく下回っている。（H25 年度 - 48.1、H26 年度 - 72.3、H27 年度 - 40.8、H28 年度 - 12.6、H29 年度 - 35.3）

7 次加配や市の習熟度加配の活用により、成果は少しずつ上がってはきてはいるものの、学力の基礎となる言語力に大きな課題があり、自ら考えるとといった主体的な学習習慣に欠けており、復讐など家庭学習の習慣が身についていない生徒が多い。全国学力・学習状況調査の「家で自分で計画を立てて勉強しますか」に対して、肯定的な回答をした生徒は 31.3% にとどまり、全国平均の 51.5% を大きく下回っている。また、「家で学校の授業の復習をしていますか」に対して肯定的な回答をした生徒は 19.4% にとどまり、全国平均の 50.5% を大きく下回っている。

さらに「読書が好きな生徒」が 59.7% とここ数年の取り組みにより向上傾向はあるものの、全国平均より 10.2 ポイントも低く、「平日授業時間以外にまったく本を読まない」生徒の割合も 40.3%（全国平均 35.6%）と高く、読書習慣に大きな課題がある。

これまででも、一斉読書や「学校元気アップ地域本部」と連携して図書開館回数の増加や図書館の環境整備に取り組んできたが、より一層の取り組みが必要である。

⇒ ① 「学校元気アップ地域本部」と連携して、より使いやすい図書室環境を整備する。

② 新聞の全国紙 4 紙と 2 社の中高生新聞をそれぞれ 1 部ずつ各学級と図書室に置くことにより、生徒が休憩時間などに新聞を自由に読める環境を整備する。

### ◎期待できる効果

① 読みたい本が探しやすい環境を整え、読書への関心を高める。

② 学級に常に新聞があることにより、新聞がより身近なものになり、社会的事象への関心が高まる。また、教科や総合的な学習の時間に新聞を活用した授業を行うことにより、読む力、書く力、表現する力を育成できる。

③ 文章を読むことの習慣化を図ることができ、読書への興味を高める動機づけが期待できる。